

今年も中央図書館で「友の会ウィーク」を開催 参加団体は多様なイベントを企画 来場者と一緒に楽しむ

第8回目を迎えた「葛飾図書館友の会ウィーク」は、11月6日(日)の「かつしかシニア絵本の会」のデビューからスタート。中央図書館の「おはなしのへや」、大小2ヶ所の会議室を会場にして友の会会員が所属しているボランティア活動をしている6団体、友の会の3委員会が参加。土曜・日曜を中心に絵本の読み聞かせ、紙芝居やおはなし、朗読劇、マジックショー、手袋人形作り、CDコンサートや2回のナイトシアター、DVD上映などバラエティーに富んだ盛りだくさんの21のイベントを開催しました。

最終日の11月23日(水・祝)は中央図書館との共催で、23区内の図書館を制覇された図書館愛好家の竹内さんによる特別講演会で幕を閉じました。期間中は展示コーナーでは友の会や参加団体の活動紹介やグッズの陳列、ポスターの掲示などを行いました。

今号はこの「友の会ウィーク」の実施報告を中心にお届けします。

友の会の講演会らしいね！

友の会ウィーク

「東京図書館制覇」サイト管理人、竹内庸子さんが語る 「図書館巡りの楽しさ」

11月23日(祝)中央図書館との共催で特別講演会を開催しました。都内の公立図書館のすべてを訪れ、その詳細をHPに日々更新し続けている竹内庸子さん(図書館愛好家)を講師にお迎えし、図書館好きの集団である図書館友の会にぴったりの講演をしていただきました。演題は「図書館巡りの楽しさ」。

竹内さんが、ふとした思いつきではじめた図書館巡りのサイトが10年も続いているのは、基本的な仕組みは同じ公共の図書館が地域によってさまざまな個性を持っているからだと言及、ご自身の収集した図書館利用カードのスライドを投影しながらスタート。地域による変わったローカルルールの紹介として本の配架の特色(漢字順や年代順とか)や、図書館カードを表示しないと入れない小学校内にある図書館、古書店の商品の本を展示している図書館、新聞のチラシを資料として保存している図書館、ヒノキ造りの図書館、ウルトラマンコーナーのある図書館、鉄人28号のレプリカが展示されている図書館、レコードを2万点も所蔵する図書館、神社の敷地内にある図書館などなど。ご自身が実際に訪問して語るその知識に参加者はひきつけられました。



また最近の図書館は、ただ本を貸し出すだけでなく、ビブリオバトルのように利用者参加型のイベントなどを企画するところが多くなり、読書検定、中身を隠して本を貸し出す葛飾区の「はてなブックス」のような試み、謎解きイベントなどについても熱く語っていただきました。



「東京図書館制覇」と最初に謳ってしまったので、地域館を含めたすべての図書館を巡ることとなったが、それによって小さな図書館の良さが見えてきました、と語られていたのが大変印象的でした。2時間におよぶ講演会はとても盛況で、終了後も熱心な参加者の質問が相次ぎました。

友の会ウィーク 第4回映像文学館「泉鏡花—夢幻への旅」DVD上映と朗読CD『滝の白糸』を最後まで聞く

「友の会ウィーク」でお馴染みになった、図書館所蔵のDVD・CDを活用する映像イベント《第4回映像文学館》が、11月19日(日)に中央図書館会議室1で開かれました。

第1部DVD上映は、明治、大正、昭和の3代にわたって独自の美意識で神秘幻想の世界を描き続けた泉鏡花の生涯を描いた作品ですが、今回は急逝した名優「平幹二郎」さんの語り、チェロの独奏とともに場内に重厚な響きを伝え、参加者の皆さんを感動の世界に包み込みました。

文豪・尾崎紅葉に師事し、『義血侠血』『夜行巡査』『外科室』『高野聖』『婦系図』などロマンチズムと怪奇趣味に彩られた傑作を数多く世に出し、近・現代における幻想文学の先駆者でもあった、泉鏡花の一生を伝えた傑作映画です。

第2部CD朗読は、新派の大女優2代目「水谷八重子」さんが、鏡花作『義血侠血』(滝の白糸)を原文で口演するという画期的なプログラムでしたが、平成の私たちには耳慣れない、鏡花独特の擬古調美文を耳で聞くのは大変なことで、2時間を超える朗読に耐えた参加者は僅かでしたが、大きな拍手に包まれて終演を迎えました。アンケートからは、「とてもよかった。朗読も最後まで聞いた」「平幹二郎さんの声が素晴らしい」「泉鏡花の生き方がよくわかった」などの感想が届きました。

友の会ウィーク CD・DVDコンサート「アンコール・リクエストNo.1」を再演 ヴィヴァルディの「四季」とヨハン・シュトラウスのワルツ



よく晴れた11月13日(日)の午後、第54回CD・DVDコンサートは開演前に流れた「こうもり」のワルツからすでに軽やかで心はずむ空気が流れていました。さあ始まる！ プログラムの第1部はDVD「ヴィヴァルディの風景」です。曲は超有名な協奏曲集「四季」。ヴィヴァルディが生れ、活躍したヴェネツィアの運河や教会などを皮切りに、ローマ、ミラノ、北イタリアの雪をかぶった珍しい風景、最後は客死したウィーンまで、現地ロケの映像が音楽を引き立て、目を楽しませてくれました。

第2部はDVD「ヨハン・シュトラウスの風景」。ニュー・イヤーズ・コンサートでもおなじみ「美しく青きドナウ」や「ピチカート・ポルカ」「皇帝円舞曲」「南国のバラ」他。はなやかに流れるように快く美しい曲の背景は、シュトラウスのウィーン。広々としたドナウ川や宮殿、歌劇場、公園、「美しく～」を書いた家、演奏旅行に訪れたロンドンをはさみ、墓所と没後に建てられた金色の記念像(青砥駅前にレプリカあり)などでした。なお、曲の一部は録音がかなり古かったため、映像に合わせてCDの音をあてる苦心が…。

友の会ウィーク “OVER60” 「シニア絵本の会」が図書館デビュー



今年は、「かつしかシニア絵本の会」が初めて参加しました。この会は昨年、今年と葛飾区高齢者支援課が主催した「60歳からの絵本の読み聞かせボランティア養成講座」の受講者によって結成された『会員相互の協働作業を通じ、子どもと本のつなぎ手として地域の世代間交流を進め、絵本の読み聞かせボランティア活動を実践する』サークルです。毎月第2水曜日午後中央図書館で勉強会を行い、今年2月からデイサービス施設や児童館で活動を開始しているこのサークルの図書館デビューは、ウィーク初日のトップバッター。子どもたちを相手に“初舞台”の会員も多くいたとのこと。

6回の「おはなしのへや」での会はすべてテーマを決め、それに沿った絵本を選択して楽しんでもらうという趣向。また会議室2を使用して「絵本リレー」と銘打って2時間半の間、絵本を交代交代で読み続けていくイベントも実施。真剣に聞いていた幼児や大人の来場者もたくさんいらっしゃいました。この経験が今後の活動の糧になること間違いなしだと思われました。

みんなで楽しむ手袋人形講習会

くまちゃんが会議室で27匹誕生

最後は参加者全員が演技の練習



11月16日（水）午前10時から「みんなで楽しむ手袋人形講習会」が会議室1で開催されました。今年は27名がくまの手袋人形を作って演技の講習を受けました。

1ヶ月以上前からの事前申し込み制に、今年は希望者が次々と集まり、募集の20名はすぐに定員に達する人気ぶりでした。その希望者の中には初めて男性が！ それも2名も!! 一人は日常生活でも裁縫をやる機会があり、あまり

苦にならない方で、もう一人は針と糸を使うのは小学校以来だという方でした。

講習会は図書館職員4名の指導のもと、市販のキットを利用し、毛並みも柔らかなボア布で、ミシン縫した線に沿って手袋状にカットすることからスタート。丸いシッポや白い鼻を着ける作業を黙々と進めましたが、針に糸を通すのが一苦労のシーンもあちこちに発生。時々、見本の完成品を参考にしながら、徐々にくまらしくなっていました。

制作の最後は、「顔が命」という目の取りつけです。僅かな違いにより表情が一変してしまいます。ここではあちこちから笑い声が起きました。そしてトリコロールの首のリボンを付け、おめかしをして完成！

1時間半で無事、27匹のくまさんが誕生しました。同じキットを使ってもその顔は、父さんぐま、お兄ちゃんぐま、赤ちゃんぐまと、みなさまざま。どことなく制作者に似ていたかも!?

完成後は人形の動かし方と演じ方の基本と注意点をまなびました。職員の模範演技に児童サービス応援委員会のメンバーも加わり、賑やかな実演風景が展開されました。

その後は、参加者全員でくまさん人形を片手に歌いながら何曲も演技の練習を行いました。里に出てきたクマの被害が報道されるなか、図書館で誕生したクマは、これからあちこちで子どもたちを楽しませることでしょう。



「おはなしのへや」などで週末を中心に

参加団体が絵本読みや紙芝居、おはなし会やマジックショーを開催



中央図書館の「おはなしのへや」をメイン会場として、乳児・児童及び保護者を対象にしたおはなしや手遊び、絵本、紙芝居を利用した読み聞かせなどのイベントが数多く開催されました。

サークル「飛行船」による2回の紙芝居、「おはなしたまごの会」のおはなし会、「あおぞら」による紙芝居、そして友の会児童サービス応援委員会の「おはなしくらぶ」によるおはなし会など。週末を中心に午前10時半と午後3時半からそれぞれ約30分間、手遊びやグッズを利用したり、工夫を凝らした読み聞かせが目白押しでした。また収容人数40名の

会議室2では「花だいこん」による朗読劇のミニ発表会があり、会の名称の由来となった「むらさき花だいこん」の話を数名で読みつないでいくイベントもありました。

また今年も「ザ・マジック」によるマジックショーがあり、手品、南京玉すだれ、のこぎりを使った演奏などが披露され、前に陣取った子どもたちの歓声が会場に溢れました。

友の会活動をパネル展示で紹介！

期間中、展示コーナーでは中央図書館の協力をいただき、参加団体のイベントポスターを掲示したり、友の会のこれまでの活動紹介を行いました。昨年度開催された手袋人形講座で誕生した《こぶた》の実物、ナイトシアターの歴代上映リストやポスター、キーワード読書会の「時間」の回で紹介された書籍、さらにはCD・DVDコンサートの初回からこれまでのリスト、またこの1年のプログラムや「友の会通信」のカラー原版などが展示されました。



「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は1口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、28年度年会費とご記入下さい。また1口 500 円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん) Tel 03-3607-9201

私の場合、読書意欲というより購買意欲がめっきり減退したのは、近年の懐事情も大ありだけど、つまりインターネットとか携帯電話とか昔は存在しなかったコストが小遣いのシェアを圧迫しているのも確かだが、もっと深刻な、近隣のごくフツフツの書店がほぼ消滅してしまったのが原因なんだと深く深く思う▼自分の小遣いで本を買い始めたのは中学1年生からだ(記念すべきその本は旧仮名遣いの「坊ちゃん」金50円也、資金が足らず目当ての本が買えない月も店には通いつめ、飽かず店内を歩き回った▼新潮、角川、岩波の文庫が揃っていたF書店、創元推理文庫(解説目録は当初薄くて中綴じ)を置いていたE堂、まだジャケットを置いていたアーケードの中のM書房ではペイネのミニブックを見つけた▼街の小さな本屋さんでも最新刊はおおむね手に取れた時代。昭和60年代前半あたりまでだったか。以降の衰退ぶり。店頭に並べきれず、配本さえされないほどの多すぎる出版点数が大元凶▼今たまたまは大規模書店へ行くし、通販のお世話にもなっているけれど、昔の個人的な本屋さんたちが懐かしい。レジ横に柴犬がお座りしていたF書店。立原道造全集のおまけにキャベツをくれたH書店。隣は青々キャベツ畑なのだ。

(林編集委員)

色えんぴつ